



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2014 **1**



【大原幽学記念館（千葉県旭市）】



【賀川豊彦記念松沢資料館（東京都世田谷区）】



【尊徳記念館（神奈川県小田原市）】

12月12日(木)・13日(金)、兵庫JCC（生協・農協・漁協・森林組合）創立30周年記念企画として「協同組合の源流を探る旅」を実施、4団体の次世代を担う職員23名が集いました。「大原幽学記念館」「賀川豊彦記念松沢資料館」「尊徳記念館」を巡り協同組合の原点に触れ、顔の見える関係を築きながら事業の連携につなげる取り組みを考えました。（関連記事 P.15）



兵庫県生活協同組合連合会 会長理事

本田 英一
(ほんだ・えいち)

「地域の安心づくり」を進めよう！

明けましておめでとうございます。19年前の1995年1月17日、大都市直下を震源とするマグニチュード7・3の兵庫県南部地震が発生しました。この地震は、死者6,400人、負傷者43,800人とこの地域に途方もない被害をもたらしましたが、一方、我々に「社会はこの種の大災害にどう備えるべきか」を考える機会を与えました。その結果、広域防災体制が整備されたり、被災地でのボランティア活動の重要性が広く認識されることになりました。そして、3年前の2011年3月11日に、東日本大震災が起こりました。日本の観測史上最大のマグニチュード9・0を記録する大地震であり、しかも、この地震により、場所によって波高10m以上、最大遡上高40・5mにも上る大津波が発生、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。兵庫県に住む私たちは、直ちに被災地支援に取り組みましたが、それは、阪神・淡路大震災での経験から得た教訓を生かす場になりました。そして、東北の被災地を支援する中で、阪神・淡路大震災とは異なる困難があることを知り、それに対する対応についても学びました。

そういう意味では、この地に住む我々は、19年前の自らの被災体験と3年前の被災地支援で、今後の大災害に他よりいくらかうまく対応できるかもしれません。しかし、

それで「備えは万全」と言えるでしょうか。阪神・淡路大震災からすでに19年、この間に、取り巻く社会環境は大きく変わっています。中でも、人口減少と高齢化による変化には、特に大きなものがあります。全国の65才以上の人口は、1995年に183万人（構成比15%）が2012年には1・7倍の308万人（同24%）に。しかも、独居を含め高齢者だけの世帯が増えています。平時においても「孤独死」といった悲惨なニュースが聞かれます。大災害の中で、うまく助け合えるのでしょうか。阪神・淡路の教訓の一つに「大災害はいつ起こるかわからない」があります。その時、我々は19年前より、本当にうまく対応できるのか、個々のノウハウをあらためて棚卸し、不足部分を補い、バラバラなものをつなぐことでより効果的な防災体制が作れないか、またそれは平時においても「地域の安心づくり」になるのではないか、そう考えます。

兵庫県生協連は、会員の皆さまとご一緒に「この1年、地域の安心づくりが進んだね」と言って大震災から20年目の節目である2015年を迎えられるよう取り組んでいきます。本年も、どうぞよろしくお願ひします。

CONTENTS

- | | |
|--|--|
| 2. 想点 | 17. 単協通信
西宮市民共済生活協同組合／兵庫労働共済生活協同組合 |
| 3. 会員生協・今年の抱負 | 18. 協同組合のかけ橋 |
| 14. 会員生協・今年の抱負／第4回理事会 報告 | 19. 兵庫県のページ |
| 15. 兵庫JCC「虹の仲間であそぶ」報告／
兵庫JCC「協同組合の源流を探る旅」報告 | 20. 「ひょうご消費者セミナー2013」のご案内／
第9回初級経理学校、第12回税務・経理講習会のご案内／
県連日誌／編集後記 |
| 16. 単協通信
佐曾利消費生活協同組合／神戸市民生活協同組合 | |

2014年 今年の抱負

共に生きる、未来につなげる



生活協同組合コープこうべ
常務理事
木田克也

新年あけましておめでとうございます。昨年同様、「生協らしさ」について考える年となりました。

コープこうべは、「共に生きる、未来につなげる」を基本方針として、私たちのあるべき姿を模索する「次代コープこうべづくり」をスタートさせています。具体的には、社会的課題を解決する事業体のトプランナーを目指し、大きくは3つの取り組みをすすめています。

一つ目は、組合員一人ひとりとの新たなつながりの創造です。

その一つとしてスマートフォンを活用し、双方向のコミュニケーションができるしくみを実験しています。

二つ目は生協らしい新事業の取り組みです。いよいよ今年4月より小学生を対象とした学童保育事業をスタートさせる予定です。

三つ目は、コープこうべWAYの浸透です。SNSなどのコミュニケーションツールも取り入れ、自ら主体的に考えて動く職員づくりと組織風土改革をすすめています。

生協はメンバーシップ組織であることに立ち返りこれらの取り組みを通して、組合員を主役とした生協づくりをすすめて考えています。

今年も、くらしも事業運営も厳しい環境が予測されますが、このような時こそ、みんなの力を寄せ合い困りごとを解決していく生協ならではの強みを発揮する機会だと思っています。

トプランナーを目指す以上、厳しい風を受けるものと覚悟して前にすすみたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

一味違った運営視点に



佐會利消費生活協同組合
理事長
中村 豊

新年おめでとうございます。

「村」の生協は購買事業のみを運営しています。かつては、小さな百貨店程度の役割を果たしていましたが、近在の大型スーパーやコンビニの出現、車の普及ですっかり利用が変化してしまいました。この後は、いかに利用度を高めていくかであり、組合員の意見を聞きながら、必要とされるものへの対応を柔軟に考えねばと思っています。

店を訪れる村の方は中・高年が中心であり、今後もその傾向は続くと考えられます。生活用品の調達はもとより、互いの情報交換やおしゃべりの空間として使ってほしいものです。今夏からは談話コーナーの壁に、地元で活躍の作家・趣味人が作品を展示し、常設のギャラリーとして季節毎に変化しています。いわゆる「文化」の香りが定着し、組合員である村の人たちや子ども達に影響をもたらせばとも思っています。ミニ図書室なども計画中で、一味違う運営を模索しています。

昨年、村づくりも含めて利用アンケートを実施しました。将来のありように様々な意見が出ましたが、設立・存続の歴史を大切に、有効な組織であり続けられるよう頑張ります。



生活クラブ
生活協同組合都市生活
常任理事
大沼和世

次代につなげよう！「安全・健康・環境」

新年あけましておめでとうございます。

生活クラブでは、「安全・健康・環境」を掲げて運動しています。しかしそれは、今の私たちが快適に豊かな生活ができればよいと取り組んでいるわけではありません。「次代につなげられるように」という言葉が冠されています。

私たちの日々の消費のあり方が次代の暮らしを規定してしまうということに、あまりに無頓着であると日々感じます。特に食については、ブランド・銘柄志向か、逆に価格の安さが先に立ち、「健康」の礎であることが軽んじられています。

生活クラブ都市生活では、2013年度からの中期計画で、日々の暮らしに欠かせない「食育」をテーマに、栄養面だけでなく、生産や環境の問題、食文化にまでつなげながら、プロジェクトを立ち上げ取り組んでいます。それは若いお母さんたちの気づきの機会となり、みるみる変わっていく姿を見かけるのは嬉しく頼もしいものです。

TPPの行方が大変気になりますし、脱原発のエネルギー政策も転換されそうです。次代のために「安全・健康・環境」を掲げ、今年も元気に活動を繰り広げて参ります。



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事
西村明彦

いまの暮らしとあすの社会

新年あけましておめでとうございます。

昨年は「アベノミクス」がもてはやされ、「景気回復」と報道されました。しかし利益を上げたのは円安の恩恵を享受する大企業などに限られ、平均賃金の上昇にはつながりませんでした。

円安で物価が上昇している上、今年4月には消費税の増税が実施。大多数の国民にとって暮らしの厳しさが増す一年となることは確実です。

しかも、報道や考え方の自由を奪う特定秘密保護法案や、国の主権をないがしろにするTPP協定など将来にまで悪影響を及ぼしかねない社会的な動きが進み、将来の見通しを暗いものにしていきます。

生活協同組合として協同の力で組合員のいまの暮らしを守ることはもちろん、世の中の動きに関心と責任をもつ多くの組合員とともにあすの社会を考えていきたいと思えます。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
理事長
小泉佳久

2014年を明るくする年へ！

日々高まる領土問題での近隣諸国との危険な状況。拡大解釈の歯止めのない懸念を持ったままの特定秘密保護法の制定。4月消費増税など重いニュースが続きます。又、東日本大震災から3年、未だ福島第一原発事故での放射能汚染（水）の拡大、解決の目途すら見つかっていません。頻繁に起こる地震、東南海地震、稼働原発直下の活断層の存在、全て自然災害とは言いきれません。

アベノミクスは、円安・株高と一部景気回復の兆しを見せ始めていますが、消費増税が一般に受け入れられるかは世帯収入増加にかかっています。一方、TPP早期締結への圧力は日々増しています。2014年も遺伝子組み換え食品に反対し、食の安全と日本の農業を守るため原発再稼働及びTPPに反対していきます。

宅配事業は新規参入を含め厳しさを増しています。生協間連帯を強力にし、組合員のいのち・自然・暮らしを守る取り組みを強化します。

2014年も希望を持って明るく挑戦します。今年もよろしくお願ひします。

組合員福利の増進と復興支援



西宮市職員生活協同組合
事務局長
山西 元

新年あけましておめでとうございます。

当生協では、復興支援業務として、昨年11月16日に鳴尾浜臨海公園で開催した「女川さんま収穫祭」に実行委員メンバーとして参画し、必要な物資の提供に協力するとともに、組合員も運営ボランティアとして多数参加いたしました。このイベントは西宮市が職員を長期派遣している宮城県女川町より感謝の気持ちとして提供された、さんま3,000尾の塩焼きとさんますり身汁1,000杯を無償提供するもので、多くの方に来場していただきました。理事長を実行委員長として7ヶ月かけて準備したもので、その甲斐あって、組合員もさんまを炭火で焼いたり、すり身汁の調理等に楽しく関わることができました。運営に際しては、甲南大学生協及び関西学院大学生協からも学生ボランティアの協力をいただきましたこと感謝申し上げます。

その他、女川漁港水揚げ生さんまの組合員へのあっせん事業や、生協祭の福引の景品として、東北の特産品の詰め合わせを提供いたしました。

本年も、組合員福利の増進と復興支援を目的とする共同企画等、様々な企画を立案し実施できるよう、一層努力してまいりますので、皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。

組合員の期待に応えて



兵庫県学校生活協同組合
専務理事
林田直喜

本年もどうぞよろしく願っています。

昨年を振り返ると、学校生協の専務理事に就任し、余裕のない中で日々が過ぎていきました。今年は環境の変化に柔軟に対応しながら、スピード感を意識して、着実に業務執行していきたいと思えます。

組合員を取り巻く状況も、学校生協の事業環境も厳しい状況が続いています。

近年教職員の大量退職と採用に伴い、世代交代が進み、組合員の価値観やニーズも多様化しています。そのため、組合員の意思やニーズを汲み上げ、事業に反映するなど組合員からの期待に応えていく年としなければならぬと考えています。

また、東日本大震災の復興支援並びに学校教育支援として、「南極教室」を継続するなど社会貢献の取り組みを推進します。

4月からは消費税が増税され、組合員の経済環境がさらに厳しくなることが想定されますが、暮らしに役立つ商品やサービスの提供に努めて参りたいと思えます。

引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。

新年の抱負



神戸大学生協同組合
専務理事
末松泰信

新年明けましておめでとうございます。

今年はいよいよ年であればいいですね。政権が変わり、景気回復に期待が高まり、雇用者数が増加傾向で、たいへんムードはいいのですが、消費税増税が決まり就職難も続き、組合員の大半である学生の生活が豊かになったり希望ある将来像が描けたり、というところまではまだまだ至っていないなあと感じています。その学生達が学長にインタビューをする機会があって、「大学で過ごす4年間を通してどのような人間になってほしいですか。原発事故や温暖化による環境問題に対する意識の変化、政治による経済情勢の変化など私たちはまさに時代の変化の中にいます。その中で学生はどのような役割を担っていけば良いでしょうか」との質問をしていました。受け止め方は様々あるでしょうが、「混沌さ」に対し生協人として明示しきれない歯がゆさが残ります。

この夏より、工学部に生協施設の耐震工事が行われ、年末には全面リニューアルされた施設が誕生します。「グローバル人材の育成」に対して一端を担える事業活動も開始しました。相応の人的・物的投資が必要なのですが、大学生協のお金ではない価値を高めたいと思います。本年も引き続き、よろしく願っています。

新年を迎えて



関西学院大学生協同組合
専務理事
高橋秀行

新年明けましておめでとうございます。
今年関西学院は創立125周年を迎えます。様々な記念事業が予定されており、生協でもこれに関連して昨年度来、店舗の移設や改修が続いており、これを機により便利な店舗づくりを目指しています。

また、現在関学生協では組合員証のICカード化を進めています。今春の新入生組合員には全員にICプリペイド組合員証を交付する予定です。今までは、組合員証は「紙」であり、それとは別に、食堂利用やパン・弁当購入のための「ミールプリペイドカード」を希望者に購入していただく形でしたが、全員がICカードを持ち、食事関連以外にもほぼ全ての商品をご利用いただけるようになります。

いずれも多大な投資が必要ですが、今年設立55周年を迎える生協にとって、これからも永く関西学院への貢献と組合員の生活・勉学研究の充実を実現していくためには不可欠な内容です。

常に「何のために生協はあるのか」に立ち返り、おれず役割を発揮していく一年にしたいと思っています。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

新年を迎えるにあたって



神戸市外国語大学
消費生活協同組合
専務理事
衛藤昭二

新年明けましておめでとうございます。
今年も神戸市外国語大学生協をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

神戸市外国語大学生協は1966年に設立され、2年後には50周年を迎えますが、2014年は外大生協にとって大きな転換期になるうとしています。一つは2月に食堂の全面改装を行うことです。神戸学園都市に移転して約27年間大きな改装はできておりませんでした。経営環境も改善されたことから1ヶ月半かけて改装することになりました。期間中は組合員の皆様にご迷惑をおかけすることになりますが、よりたくさんの方にご満足いただけるようにしていきたいと考えています。

もう一つは隣の神戸市看護大学に生協店舗を設置することになったことです。大学の福利厚生を担う生協として、学生、教職員の方々の希望に添った店舗づくりを心がけていきたいと考えております。2014年は多忙な年になりそうですが、一年間頑張つて参りたいと思ひます。

皆様のご指導・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

組合員に向き合い、 変化に対応できる活動を



甲南大学生協同組合
専務理事
内田真紀子

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

昨年は、夏休みを利用して6か所の改装を学園の協力の元で行いました。夏休みが明けて新しい店舗に足を運んだ学生組合員の喜びの声を聞くことができました。新店舗を作るにあたって経営学部西村順二研究室と商品の販売方法、名称の決定を行い、「甲南平生塾」のメンバーとはCaféでの過ごし方提案を共に検討してまいりました。その甲斐あつて実際に利用する組合員の声を最大限に活かし、一緒に作り上げてきた店舗となっています。大学生協は4年で多くの組合員が入れ替わります。店舗、商品、展開方法、組合員活動も日々変化をし、求められるものも変わってきています。私たちの強みは組合員と一緒に活動や運営を考えて、進めていける事と、こういった意識を持ったスタッフが常に揃っている事です。本年度は昨年の改装を通して培った組合員の皆さんの力をよりお借りして、常に今の組合員と向き合い、変化をし、期待をし続けていただけるような活動をしつかりと取り組んでまいります。本年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

敬頌新禧



兵庫県立大学生協同組合
専務理事
藤井貴浩

明けましておめでとうございます。本年も皆様にとって良き年となるよう祈念いたします。

兵庫県立大学は昨年4月に公立大学法人に移行しました。それに伴い、「公立大学法人兵庫県立大学における福利厚生等に関する大学と生協との協定書」を締結しました。

これは、従前の大学との協力関係を更に発展させるべく、大学の福利厚生と学生支援の充実をとともに目指すという内容になっています。

大学生協はその大学との協力関係が欠かせません。大学と生協が互いの役割を認め、同じ方向を向いて協力していくことを確認したことは、何よりも心強く、これからも大学へのお役立ちのために、より一層の精進を重ねて参る所存です。

ただ、消費税増税や2015年度卒業予定者の就職活動時期の後ろ倒しなど、来る2014年度は苦難の道となりそうです。「大学への貢献」と「健全経営」、まさしく生協の両輪、「運動」と「事業」をいかにバランス良く進めることができるかが問われます。

今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を賜り、着実に歩み続ける所存です。

新年を迎えて



神戸薬科大学
生活協同組合
理事長
畑 公也

新年おめでとうございます。

神戸薬科大学生協は昨年、無事創立20周年を迎え、「成人」としての新しい一歩を踏み出しました。ここまで順調に成長することができましたのも皆様のご援助、ご協力のおかげと、心から感謝いたしております。

また、幸いにも大学の80周年を記念して建てられた新体育館棟に、新しい食堂と購買部のスペースを与えていただくことができました。購買部は他にあまり例を見ない床面積を有し、ゆつたりと買い物することができ、建物の3階に位置する食堂は海を見下ろす最高の眺望を誇り、利用者の皆様からも絶賛を得ております。

このような活躍の場を与えられたことを力として、ますます組合員の皆様の生活の質の向上に寄与できる生協として成長、発展するよう、職員、理事一丸となって努力する次第です。今後ともこれまでも増して、ご協力いただけますようお願いいたします。

新しい年を迎えて



神戸親和女子大学
生活協同組合
専務理事
今村奈星

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

昨年は日本はもとより世界的にも自然災害が多い年だったように思います。地球温暖化が懸念される中開催された、COP19で日本は二酸化炭素の排出量を、1990年の京都議定書基準よりも3.1%増加した、2005年の3.8%削減と発表しました。震災以降、火力発電の稼働が要因として挙げられていますが、原発問題を含め、エネルギー問題について国民が真剣に考える時が来ているように思います。

さて、現在の大学生はほとんどの人がスマートフォンや携帯を持ち、SNSなどを通じてのコミュニケーションを頻繁に取っています。大学生協は広報ベタだと言われていますが、当生協もなかなか上手に組合員に情報を伝えられておりません。今年はWEBやSNSなどをもっと活用したご案内をしたいと考えています。もちろん、実際に組合員と触れあえる組合員企画なども行って直接組合員の声を聞く機会も設けたいと思います。

また、大学との関係もより良いパートナーシップを築きたいと思えます。現在大学では、「オンキャンパス」と「オフキャンパス」といって、大学内だけで学ぶのではなく、学外でも様々な社会体験を通じて学ぶということに力を入れています。大学生協でも様々な企画を通じて体験や考える機会を持つていただけたらと思います。大学生協だけではなく、地域生協や医療生協の方々との企画もできたらと思っています。



大手前大学生生活協同組合
専務理事
高橋健太郎

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

大手前大学生生活協同組合は今年、設立20周年を迎えます。これも一重に皆様の大学生協の活動に対する多大なご支援とご協力の賜物であり、この機会をお借りして厚くお礼申し上げます。

2013年度は、学生数減の影響により厳しい損益状況となっております。現状を踏まえた上で今年想定される自生協の大きな課題は、継続的に安定した経営基盤体制を築くことです。

大学生協の経営環境は、今後ますます厳しくなると思われまます。効率的な運営を重視することは当然ですが、組合員さんの声を活かした生協運営を常に念頭において安定した運営体制を構築していく年にしたいと考えております。

大学生協にしか出来ないことをしっかり見つけ直して実践し、次なる飛躍に向けて従業員一同、今後さらに精進を積んでまいり存でございます。今後とも皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



園田学園女子大学生生活協同組合
専務理事
塩野晴也

新たなスタートの年に

新年あけましておめでとうございます。本年も園田学園女子大学生協をよろしくお願ひ申し上げます。

園田学園女子大学生協では専務理事の交代を行い、昨年5月に選任されました。若輩者ではございますが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

園田学園女子大学生協では累積欠損を解消すべく、これまでスタッフ一丸となって経営再建に取り組んでまいりました。おかげさまで2012年度末のところであと312万円になりました。今年もこれまでのところ順調に剰余を残せており、この年度末でようやく解消できる見通しが立つようになりました。

これからは、これまで出来なかつた、組合員に喜んでいただける「夢のある投資」ができるよう、さらに剰余を残せる事業活動にスタッフ全員で邁進し、組合員の皆さんのキャンパスライフと、大学・学園に貢献できるような生協づくりに取り組んでまいります。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い、よろしくお願ひ申し上げます。



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事
塩田恵美

新年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。

2013年度も、組合員の要望の反映と生協の役割発揮に重点を置き、活動を行ってまいりました。大学の在り方、今の学生が大学に求めるものも、時代とともに変化しています。その大と協力しながら歩んでいく大学生協は、常に「今」の組合員に必要なモノとコトを提案できるように、柔軟な対応が求められています。2014年度新学季に向けて、学生のライフスタイルに合わせた店舗運営ができるよう、一部投資、改装も視野に入れました。組合員と向き合い、しっかりと還元しながら健全な事業運営を行えることを目指します。引き続き大学生協の役割を知らせ、親しみを持ってもらうための活動をしながら、地域社会の中で生活する大学生を支援する大学生協として邁進いたします。

2014年度は、大学が50周年を迎えます。生協としてもさまざまな場面で魅力ある甲南女子大学づくりに貢献し、元氣な組合員が社会で活躍することを願っています。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新年を迎えて



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事
藤本 淳平

新年明けましておめでとうございます。旧年中はご関係皆様より格別の御高配を賜り、誠に有難うございました。

昨年、神戸高専は学校創立50周年を迎えました。記念式典・記念講演の開催や学内公募による学校ロゴマークの制定、キャンパス内に記念ホールを新たに建設するなど、半世紀におよぶ当校の歴史と100周年への新たな門出を祝し、関係行事が盛大に執り行われた1年となりました。当生協も新ホール建設に関しての協力や、ロゴマーク策定にあたりロゴ入り記念グッズの作製を担当するなど、記念すべき節目に微力ながらお役に立つことが出来たかと存じます。

さて今年には消費税増税により事業面で少なからぬ困難な局面が待ち受けますが、変わらぬ健全運営を目指すにあたりそれを言い訳にはできません。組合員の皆様からこれまで以上に愛され、積極参加いただける生協となれるよう、学校との関係を密にし、組合員に広く開かれた運営に努めて参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

ビジョンを実現するチカラ



生活協同組合連合会
大学生協阪神事業連合
専務理事
寺尾 善喜

ICA（国際協同組合同盟）が提起する「2020 Vision」いわゆる「協同組合の10年に向けたブループリント」には、協同組合は「経済・社会・環境の持続可能性において定評のあるリーダー」として、また「人々に最も好まれるビジネスモデル」として2020年に向けて挑戦する、とあります。生活協同組合に関係する私たちには、とても意欲的な行動提起です。

大学生協としては、さらに「高等教育」という領域を加えて、次のように位置づけたいと思います。すなわち、私たち大学生協は、「教育環境の整備」と「学生支援の実現」を通じて、大学を中心とした高等教育機関の持続可能な発展に貢献できる、協同組合手法によるユニークなビジネスモデルを有した「運動と事業の統合体」としての成長軌道を継続したい。実践的には、コンビニチェーンや大手就職関連会社などの私企業の事業者には実現できない事業展開を通じて、キャンパスにおけるビジネスリーダーとして大学構成員から期待される存在となりたい、と念じます。

「連帯のすべては会員生協のビジョンの実現のために」を旗印にした「第2期中期計画（2013年～2015年）のセカンドステップの年になります。職員教育プログラムの体系化と会員生協の店舗運営の改善のための支援業務の積極展開を通じ、会員生協の「ビジョンを実現するチカラ」（ビジョンの展開力と事業体力）を育む役割を改めて胸に刻むところです。

今こそ、「三つの輪」を地域に広げよう



神戸医療生活協同組合
理事長
道上 哲也

新年あけましておめでとうございます。わたしたちは、三つの輪（健康の輪・助け合いの輪・世直しの輪）の理念をもって事業と運動をすすめています。

医療と介護をめぐる状況は年々厳しくなっています。この春から実施が予定されている消費税の増税は、国民のくらしを圧迫するだけではなく、わたしたちの事業と運動にも大きな影響があり、危惧しています。

安心して住み続けられる、まちづくりの視点。を大切に、事業と運動をすすめて、地域の健康に貢献します。高齢となり受診しづらくなった方を対象とした、組合員による自主的な助け合い活動を基本とする送迎の活動を広げたいと考えています。

昨年の総代会で、組合員の要求と地域での役割を發揮するため、2015年春に神戸協同病院に緩和ケア病棟を開設することを決定し、その準備をすすめています。一昨年より続けている東日本大震災・原発事故の被害にあわれた方への健康相談、ボランティア活動を継続させるとともに、今年は、福島から避難されている方の健診に取り組み予定です。



尼崎医療生活協同組合
専務理事
福島 哲

社会保障充実への政策転換に向けて

社会保障改革プログラム法案が強行され、患者の窓口負担世界一の状況が更に加速されようとしています。しかし世界に目を向ければ、まったく違う風景が見えてきます。

かつて日本と同様に医療崩壊状態にあったイギリスでは、公的医療費（イギリスには患者の窓口負担はありません）を大きく引きあげて、医療・福祉の質を高める取り組みが進められています。その規模は1997年〜2008年にかけて、公的医療費2・64倍化というものです。いわゆるブレア政権からの「第3の道」と言われる医療福祉改革です。財源は税と保険料の引き上げで、これには保険料の一部を負担する経営者側から批判の声も上がったようですが、国民からは大きな反対意見は上がらなかったようです。

その背景には、政権が医療・福祉の現場と一体となって取り組んだ、改善目標とその道筋の国民への「見える化」と、取り組みに対する「評価と説明責任」を果たしたことがあげられます。

尼崎医療生協は、「地域住民と医療・福祉の専門家としての職員が、ともに組合員として生協を担う」、この特性を生かして、地域の人々からの信頼を広げながら、この国の社会保障の政策転換に向けて、日常の実践と積極的な情報発信を通じて貢献していきたいと思えます。

今年もよろしく願っています。



阪神医療生活協同組合
専務理事
西川英樹

新たなステップへ

「おもいをカタチに」

新春のお慶びを申し上げます。2014年は、新規事業を安定させて次のステップを模索する年にしたいと考えています。

これまで培ってきた仕組みを大事にしながらかもつとシンプルで分かりやすい組織運営をめざして理事会で討議を重ねてきました。理事、総代、職員それぞれがどのような役割をもっているのか、生協とはどのような役割を果たすべきなのか話し合っています。果敢と決意を込めて話合っています。

先日診療所が50周年を迎えるにあたり、地域の総代と職員が「これからを語る」と題して研修会を開催しました。さまざまな意見や取り組みのアイデアが話し合われました。「おもいをカタチ」にすることを喜びあえる環境づくりが今年の抱負です。



兵庫医療生活協同組合
理事長
竹本貞雄

信頼される医療機関をめざして

新年あけましておめでとございます。

一昨年末の総選挙、昨年の参議院選挙を経て与党が圧倒的勢力となり消費増税、「持続可能」という名目での社会保障の切り捨てなどますます国民生活の先行きに不安が増えています。医療福祉の分野でもTPPによる国民皆保険の形骸化、また介護水準の大幅な低下が図られるなど、今後も予断を許さない情勢が続きます。「いつでも、どこでも、だれでも」が「安心して医療を受けられる」ことを実現するためには国民的な粘り強い運動が必要です。

兵庫医療生協は設立から43年目、現神戸診療所を移転開業してから26年目を迎えます。この間さまざまな困難がありました。役員、組合員さん、地域のみなさんに支えられて今日まで診療活動を続けることができました。本年も経営の健全化にいつもの努力をし、地域や職域の利用者のみなさんの期待に応えられるよう「心かよう医療機関」をめざして活動に取り組んでまいります。

WHOの「高齢者にやさしいまちづくり」の本格的な取り組みの年に



宝塚医療生活協同組合
理事長
茅野涼一

新春のお喜びを申し上げます。

「高齢者にやさしいまちづくり」は、昨年5月、中川ともこ市長が再選された直後の市議会です。「WHOにエントリーする」と所信表明があり、宝塚市の本格的な取り組みが始まりました。宝塚医療生協は、市の施策に協働しながら、私たちにできる課題、一人暮らしの高齢者の「見守り」や高齢者・青年・幼児までのすべての年代がつどえる「居場所」づくり等、具体的な検討を、組合員さんご意見をお聞きしながら進めます。高齢者が生き生きと暮らせるまちは、健康で明るいまちになるものと確信します。

また、泊まり機能のある介護施設と診療所の改修・建設の検討・具体化、これらの事業を推進し支える運動の構築が今年の大きな課題です。

組合員さん・地域の方々の想いを形にしていくな長期計画の具体化は、一大事業ですが、組合員さんの知恵や力を結集して、目標に向かって前進したいと思っています。

地域の皆様のご健勝・ご多幸と兵協連に結集する生協の発展を祈念して新年のあいさつとします。

誰もが、その人らしく、気持ちよく生きるために



姫路医療生活協同組合
専務理事
黒岩勝博

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、7月に飾磨区妻鹿地域に「福祉介護センターめぐみ」をオープンしました。当生協初のグループホーム（めぐみ）と当生協7か所目の小規模多機能ホーム（めぐみ）を開設し、当生協が運営する事業所は、医療事業所3、介護事業所37の計40事業所となりました。当生協は、訪問系、通所系、地域密着型サービスを積極的に展開し、在宅サービスに特化することで、介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり地域包括ケアを一步一步推進します。

今年、1月1日に「相談支援事業所てがら」を開設しました。相談支援事業所は、障害福祉サービス計画を作成する事業所です。2013年4月に障害者自立支援法が障害者総合支援法に変わり、行政が作成していた障害福祉サービス計画を民間事業所が作成する方向となりました。今後は、さらに障害福祉サービスを強化していきます。

当生協は今年、創立40周年を迎えます。誰もが、その人らしく、気持ちよく生きる。ことができるノーマライゼーションのまちづくりに貢献したいと考えています。

新たな峰をめざして



ろっこう医療生活協同組合
専務理事
金丸正樹

新しい年を迎え、抱負と決意を申し上げます。

昨年は神戸市東灘区へ新しい拠点事業所を立ち上げるべく、建設工事を開始しました。それは「うはらプロジェクト」と称し、サービス付き高齢者住宅と小規模多機能型居宅介護事業所の併設ビル、およびその近隣地へのクリニックの開設という内容です。いよいよ今年4月にはクリニックの開設、夏にはサ高住宅・小規模多機能の開設の予定です。現在、組合員と職員が一体となってその成功に向けて汗をかいています。必ずや、大きな実りを実現することでしょう。

東日本大震災の被災地・岩手県大船渡への支援行動は、昨年も継続して取り組みました。発災から三年経ち、被災者の皆さんの状況はなお多くの困難が取り巻いています。支援はまさにこれからこそが本番であり、今年もできることを永く続けていきます。この3月でわが医療生協の第五次5ヶ年計画が終了し、今後一年をかけて次の長期計画を立案しなければなりません。若い職員と元気な組合員がプロジェクトチームを組み、法人創立三十五周年を迎える来年には策定する予定です。生協の理念を踵のよう大切に、チャレンジ精神で新たな峰に挑戦する年とすべく、決意しているところです。



たじま医療生活協同組合
副理事長
中家和美

国民が政治を動かす

新しい年に

新年おめでとうございます。

原発、核兵器、基地、大震災、TPP、秘密保護法、命とくらしを脅かす出来事が次々と国民を直撃します。安倍政権の暴走は国会の多数を力に、いかにも大きいように映ります。しかし年末の秘密保護法を強行採決したことに見られるように審議期間14日の間でも審議が進むほどに、国民の批判、反対の声、行動が大きく広がりました。安倍内閣が焦れば焦るほど国民との矛盾が生じました。4月に消費税の引き上げが行われようとしています。消費税の引き上げが行われようとしていますが、多数の国民の世論が政治を動かすと思いません。日本は社会進歩の中で医療保険制度を作り、病气やケガをした時、保険証を持っていけば医療が受けられ、介護が必要になると介護を受けることができるようになります。この当たり前のことをくずし、医療保険証の取り上げ、介護保険から要支援はずし等、進められようとしています。新しい年、組合員の命とくらしを守る取り組みを強め、希望の年にしましょう。



ひまわり医療生活協同組合
副理事長
三橋 徹

みんなで活動する

参加型はすばらしい

昨年は第1回総代会を行うことができ、健康づくりの会、ひまわりクラブなど組合員さんが主体的に参加する活動が多数できました。健康づくりの会では、組合員さんが交代で先生になり「旬の魚の天ぷら&フライ」など料理教室を3回開きました。自分たちで作った料理を食べながら楽しく語らいビールを飲むのが魅力的で、毎日開いてほしいとの希望が参加者の組合員さんから出ています。健康づくりのためのミニ勉強会では「感染症予防」に続き「膝・腰の痛みを予防する体操・運動」や「認知症を知ろう」などのテーマで開きました。また、かんたんヨガ教室、気功教室も熱心なリーダーを得て日ごろの生活が変わったと好評です。ひまわりクラブでは、午後のお茶&おしゃべり会のトーンチャイムや三線の会が地域の文化祭でも演奏を披露しました。

たくさんの組合員さんが参加して知らないうちにいろいろなところで実を結んでいくのはすばらしいと実感しています。今年もこれらの活動を支え、お互いに幸せになる活動を増やしていきたいと思っています。



神戸市民生活協同組合
専務理事
眞田 尚

挑戦の年を迎えて

あけましておめでとうございます。

共済專業の協同組合になって、もうすぐ1年が経とうとしております。止まらない高齢化の流れの中で、どうやって、市民の助け合いの心を事業として成り立たせていくかを新たな商品開発と勧誘制度の充実で試行してきた一年であつたと言えます。

数字的には、歯止めが掛かりかけている様に見えるところもありますが、爆発的な回復という状況でもありません。(この文章が掲載される時に喜べるようになっていれば幸いです。)しかし、立ち止まる訳にはいかないのであります。

今後、消費税増税、TPPの見直しなど、様々な課題が待っています。当組合だけでなく、多くの組合にとつても課題でありましょう。会員生協の皆さんと知恵を出し合い、励ましあって乗り越えていかなければならないと思っております。

幸い、当組合の職員は意欲と情熱と知恵を持ってしていると確信しております。

今までの経験を活かしながら、他の共済組合の取り組みも真摯に学びつつ、神戸らしい絆を紡ぐような、積極的な取り組みを行いたいと思念しております。

そして一日も早くこれが神戸市民生協であるというものを確立し、組合員の皆様に参加していただけるように事務局挙げて取り組んでいきたいと改めて思うのであります。

年頭にあたって



尼崎市民共済生活協同組合
常務理事
小寺敬二

新春のお喜びを申し上げます。

日本の「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されることとなりましたが、和食と言えば、お正月の「御節（おせち）料理」もその代表格の一つと言える。そのおせち料理はもともとは五節句の祝儀料理で、後に最も重要とされる元旦の正月料理を指すようになったと言われているが、その料理に込められた願いは、五穀豊穡や健康を祈願する人間愛の表れであるのかも知れない。

今、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加を巡って、食の安全について喧しく議論されています。和食を構成する大切な要素として、もてなしの心・食材選び・栄養バランス・そして調理方法であり、いずれもが欠けないものが、日本の文化であると言えるのかも知れない。昨年、有名ホテルで食材の偽装の疑いといった問題が惹起したのは残念なことである。

本年の第一歩を踏み出すに際して、おせち料理の黒豆（邪気を払い長寿と健康）、数の子（五穀豊穡と子孫繁栄）、栗きんとん（金運・組合隆盛）を願いながらいただき、脈々と流れる伝統と人間愛に思いを寄せ、更に、協同組合の「人を愛し、人と人を結びつけ」、生命と財産を守る私共の共済活動の役割・意義を真摯に見つめ直し、その推進に鋭意努めたく決意したところである。

心の支援の大切さ



姫路市民共済生活協同組合
理事長
藤田雄三

新年おめでとうございます。

昨年を振り返ると、またしても自然災害が多く、特に台風による被害は、国の内外を問わず各地で大きな傷跡を残しました。

「東日本大震災」の復興も半ばであるというのに、新たな災害が次々と発生するなど、暗いニュースが多く、生活を取り巻く環境（特に気象環境）には、気が安まる時が無いという昨今であります。そんな中、「東北楽天イーグルスの優勝」は、被災地の皆さんを、どれだけ勇気づけたかは、応援の皆さんの涙を見る時、一目瞭然であります。形や物の支援の大切さは言うまでもありませんが、それに加えて内面的な心の支援の大切さを改めて感じた出来事でした。

暗いニュースが続く中、一番明るいニュースでもありました。兵協連では、昨年からの被災地支援を重点事業としており、当組合からも二名参加させて頂きましたが、たとえお相手になるだけでも、喜んで頂けるといふことを実感して帰ってきたようです。

心の優しさ・支援の大切さを強く感じています。生協の精神は「助け合い」であり、姫路市民共済は、この原点を再認識し、組合員に密着し、顔の見える共済として事業推進してまいりたいと考えておりますので、皆様のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

希望と信頼



西宮市民共済生活協同組合
常務理事
岸本 正

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

私の正月は甲子園球場隣の俗称「タイガース神社」を詣で、OB隊として行進する出初式が始まります。江戸時代に始まった出初式は明暦の大火後の復旧作業に苦しんでいた住民に大きな希望と信頼を与えました。

西宮市に甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災では多くの組合員が家屋全壊の被害に遭いました。共済金の支払いは契約上免責事項に該当するものの組合員の暮らしを守る為、いち早く震災見舞い金を支給し被災された組合員には大きな励みをもたらしました。先人の英断には心より敬意を表します。

そして今日、街は住んでみたい街、住んで良かった街のいずれも上位に選ばれるまで蘇りました。

一九九九年が経過した今でも、店頭に来られる組合員から感謝の言葉を戴きます。

暮らしの安全・安心を守る共済の意義を改めて認識するとともに「市民のための市民共済」の設立趣旨を胸に刻み、市民に大きな「希望と信頼」を持ち続けて戴ける共済生協を目指し日々挑戦して参ります。

本年もご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

新年の抱負



兵庫労働共済生活協同組合
理事長
酒井行雄

新年あけましておめでとうございます。皆様方にはご家族を含め健やかな新年をお迎えになられた事と拝察いたします。

さて、昨年の新年特集でも書かせていただきましたが、全労済では本年も引き続き「無保証者をなくそう」を合言葉に「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」に取り組んでまいります。

そんななかで、昨年来の活動を通じて組合員の自然災害に対する意識レベルを点検してきましたが、災害に対してまったく備えをしていない「無保証」の方がかなり居る現状と、無保証状態を解消することに無関心な方が多い現実を痛感させられます。

東日本大震災で、まったく備えをしていなかった組合員が、津波で自宅が流され、嘆いている姿を見て「こんな事なら無理矢理にでも全労済の自然災害共済に加入させておけばよかった」と後悔している組合員の話の話を聞きました。

昨年発生した淡路島の地震の被災者が「もう兵庫県には地震がこないと思っていた」という話を聞きました。

南海トラフ大地震が言われて久しいですが「いつかは来る大地震ではなく、必ず来る大地震」と思わなくてはならないとの報道もあります。

私たちは不幸な組合員を一人も出さないを合言葉に、今年もこの運動を積極的に取り組んで行く所存です。他の共済への取り組み同様に、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶いたします。

すべての勤労者の笑顔のために



近畿労働金庫兵庫地区
統括本部
本部長
若山忠義

全国統一の新オンラインシステムへの移行でサービス向上

新年明けましておめでとうございます。

平素からのご支援・ご愛顧に厚く御礼申し上げます。すべての勤労者の福祉金融機関であります近畿労働金庫は、労金連合会として全国十三の労金と共に、一月五日に新オンラインシステムに移行しました。このことにより、ATMご利用可能時間の拡大など「より便利に」「セキュリティを強化し」「より安全に」そして、お取引のメニューを拡大し「より充実した」「満足度の高い金融サービスが提供できる労金にリニューアルしました。

この新オンラインシステム移行を契機に労金が構成会員・組合員そして、すべての勤労者の多様化するニーズにこたえるべく充実した福祉金融機関として、更なる発展が期待されます。

今年、当金庫は第五次中期経営計画の最終年度を迎えます。昨年からの最優先課題であった「次世代システムへの移行」後のフォローをしっかりと進め、最重要課題として進めています。「収益の改善」を目指し、より経営の安定化を図るべく総仕上げの年として事業を推進いたします。

近年、勤労者の貧困や格差が拡大し人間関係も希薄になっていきます。安心して暮らせる社会には会員の皆さまと協同組合組織が連携し手を携え、共助や社会連帯に基づく事業や運動を広げていくことが必要です。ますます厳しい社会環境にある勤労者・地域の暮らしを守るため、安心・安全・健全な金融を提供し、働く仲間の暮らしを支える事は言うまでもありません。このような中「社会貢献預金・すまいる」や「ピンクリボン運動」などを通して、NPOをはじめとした寄付先団体との連携強化を図り「共生」や「公益」をめざす社会的金融機関としての役割も発揮してまいります。

本年も引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

(以上、敬称略)

2013年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

- I. 開催日時 2013年12月2日(月) 午後1時57分～3時45分
II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」
III. 出席者 本田会長理事、寺尾副会長理事、三宅専務理事、高橋、福島、新保伴、大沼、酒井、若山、林田、眞田(以上、理事)、藤田、金丸、木田(以上、監事)

〈協議事項〉

- (1) 「顧問」制度のありようについて

- (3) 2014年度1月以降の主要スケジュールについて

〈報告事項〉

- (1) 上期監査報告について
(2) 兵協連第2回生協対策資金貸付審査会開催報告および兵協連「生協対策資金貸付制度」終結に
関して

- (4) 兵庫県生協大会開催報告について
(5) 第3回東日本被災地支援活動報告について
(6) 「会員生協の概況報告」について、各出席理事・監事より報告
(7) 前回理事会～12月上旬までの兵協連行事・活動報告

次世代につなぐ「虹の仲間で森づくり」

12月7日（土）、兵庫県内の協同組合4団体（農協（JA）、漁協（JF）、森林組合、生協）で構成する兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は、グリーンピア三木（三木市）で開催された「虹の仲間で森づくり」に参加。4団体の組合員や役職員、一般参加者あわせて、約200人が森の除伐作業を行ないました。この活動はJF兵庫漁連が主催し、コープこうべとの共催で行なわれ、豊かな海を次世代につないでいくため、「豊かな森が豊かな海を育てます」を合言葉に森づくりに取り組んでいます。オリエンテーションでは「森づくりと海のつながりについて」のお話を伺い、準備運動のあと、各班に分かれて「ひょうご森の倶楽部」の方々のご指導をいただきながら、のこぎりや剪定（せんてい）ばさみを使って、約2時間の除伐作業を行ないました。終了後は、参加者全員で兵庫県産の魚介類のバーベキューやたこ飯、具だくさんの味噌汁などを楽しみました。参加者からは「生い茂っていた木々を除伐し、だんだんと太陽の木漏れ日が木々の間から差し込むと、木も気持ち良さそうに感じました」「森を育てることが、海につながっているとは知らなかった」などの感想が寄せられ、参加者同士の交流をはじめ、体験を通して森や海への関心を深めました。



除伐作業の説明を受け作業を始める参加者



兵庫 JCC 創立30周年記念事業

「協同組合の源流を探る旅」で協同組合の原点を学ぶ

12月12日（木）・13日（金）の2日間、「大原幽学記念館」（千葉県旭市）、「賀川豊彦記念松沢資料館」（東京都世田谷区）、「尊徳記念館・二宮尊徳生家」（神奈川県小田原市）を巡る「協同組合の源流を探る旅」を実施しました。この旅は兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）創立30周年を契機に、次世代職員の交流を通じた顔の見える関係づくりから協同組合間連携を積み重ねることを目的に、各協同組合の役職員22名が参加しました。世界で最初の農業協同組合である先祖株組合を組織した大原幽学、荒廃した農村の復興に取り組み報徳社を組織した二宮尊徳、貧しい人々の救済に専念したのち救貧活動から防貧活動を目指して労働組合運動、農民組合運動、生活協同組合運動、無産政党樹立運動に献身した賀川豊彦ら先人3人の記念館を訪ね、改めて協同組合の原点に触れ、現代を生きる私たちにとって大切になければならない協同の精神を学びました。

参加者からは「各協同組合が今まで培ってきたノウハウや組織力で、共通する課題を解決できるのではないかと考えます」「他の協同組合の方とじっくりお話できる機会がなにより嬉しいです」などの感想が寄せられ、各協同組合の事業と活動を学び合い、今後の事業の連携につながる交流も深まりました。



幕末の農村指導者 大原幽学について学びました



大原幽学自らの設計による生前の旧宅



賀川豊彦記念松沢資料館資料に見入る参加者



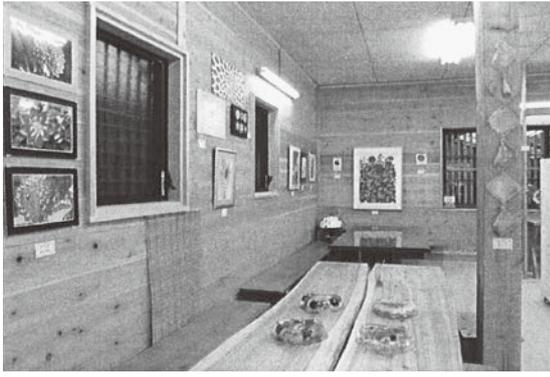
説明員の方から「自分もよし、人もよし」と説いた尊徳の偉業をわかりやすくお話いただきました

佐曾利消費生活協同組合

売店内ギャラリーが好評

こんな田舎で美術鑑賞ができるなんて！村人76戸が細々と運営する生協売店に美術ギャラリーが誕生しました。宝塚市北部に位置する旧西谷村（人口2,800人）で、創作活動をしている様々な分野の作家や趣味人が手をつなぎ、作品を発表される場として実現しました。

昨年、地域の方々の談話コーナーとして、役員たち自らの手でリフォームした杉板張りの一角。地元



特産の花・ダ

リアをモチーフにした油絵、木版画、ちぎり絵、写真、花染め布、水彩画、アクリル画、ステンドグラスがずらりと並びました。買い物に来られた組合員が、休憩しながら至近距離で観賞されています。

理事長の旧友も出品者の一人で、倉庫のシャッターにはダリアの花が大きく描かれました。生協の建物群を村づくりの拠点にしたいとの思いを共有し、高齢化する村を元気にすること、若年層が魅力を感じる空間を創造することを目標に掲げています。11月からは作品が総入れ替えされ、季節ごとに楽しんでもらえるよう、通年展示を計画しています。

（通信員 後北信子）



神戸市民生活協同組合

「KOBЕ 夢・未来号 フェスティバル@ノエビアスタジアム」で事業を紹介

11月23日（土）、ノエビアスタジアム神戸前広場にて、『KOBЕ 夢・未来号 フェスティバル@ノエビアスタジアム』が開催されました。こちらは兵庫県サイクリング協会が主催される催しです。当日は実際に神戸市内でのロードサイクリングを実施したほか、プロ自転車選手のトークショー、自転車試乗会、兵庫県警による自転車シミュレーターを使った交通安全教室などが開催されました。神戸市民生協は今回が初めての参加となります。

当日はさわやかな秋晴れの日



青い鳥の風船は子どもたちに大人気

で、会場は大勢の参加者の方々にぎわいました。神戸市民生協も交通安全共済を紹介したパンフレットを配布したほか、完走されたサイクリストの方々に飴をお渡ししたりしました。子どもへの参加者には風船を配ったり飴のすくい取りを行うなど、様々な広報活動を行いました。

参加者の方々からは「交通安全共済を初めて知りました」「お手頃な価格の共済でいいですね」などの声をいただきました。神戸市民生協では、日本国内での交通事故によるケガの入・通院を保障する交通安全共済を取り扱っており、特に近年増えている自転車による事故にも対応しています。身近な乗り物の自転車を利用する方は多くおられるだけに、より共済を活用していただけるよう、こういった機会を活かしてPRに努めていきたいと思っています。

（通信員 鹿田裕子）

西宮市民共済生活協同組合

「乳幼児とパパ・ママの

遊んで学ぶ防災講座」を開催

西宮市民共済生活協同組合では、去る平成25年9月7日(土)と15日(日)の両日で「乳幼児とパパ・ママの遊んで学ぶ防災講座」を開催しました。市民共済の事業活動や地域活動を目的に、防災月間に合わせて、緊急時の避難方法や対処方法について、特に災害弱者となる乳幼児を抱える保護者を対象にセミナーを



巨大地震などの災害に備え親子で防災について学びました



抱っこひもの代用としてさらし布の巻き方を練習

開催しました。両日合わせて、24組、66人の組合員・市民参加があり、盛会に終了しました。

当組合では、初めての試みでしたが、兵庫県防災士会の専門家の皆さまに講師を依頼し、職員・普及員で広報しました。

河野昌弘理事長のあいさつや参加者との記念撮影をはじめ、パネルシアターや非常持ち出し品ゲーム、晒し布による搬送やレジ袋でのオムツ作成等盛りだくさんのメニューに参加の組合員さんからご好評いただきました。また、7日は日刊紙3社が取材に訪れ、翌日の朝刊にも報じられました。

今後も、組合員や地域に密着したテーマでセミナー開催する等地道な活動を続けたいと思います。

(通信員 白井 浩)

兵庫労働共済生活協同組合

職員全体研修を開催しました

「災害時でも「組合員の全労済」であるために」

兵庫労働共済生活協同組合(全労済兵庫県本部)は、11月30日(土)開催の「全体研修会」(参加人数58名)にて、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」 研究部長 村田 昌彦氏より、「来るべき南海トラフ等巨大地震への対策「防災・減災への意識強化、発災時の行動」と題してご講演いただきました。村田氏からは、まず東日本大震災



の被害状況や発生メカニズムを紹介いただいたのち、将来予想される「南海トラフ巨大地震とそれにとまなう津波被害」に関する様々な研究成果と、国・兵庫県・自治体が策定・計画する諸対策・取組みについて説明・解説いただきました。そのうえで、「防災・減災のため何をすべきか」という観点から、一般家庭での取組み・対策とあわせて、事業体に求められる「災害時の事業継続計画(BCP)」についてご講演いただきました。このうち、「万一の発災時における行動手順」を確認・検証するため、事業拠点・部署ごとの分散会にて机上演習を行いました。

火災共済・自然災害共済をつうじて、組合員に「住宅・家財保障」を提供する生協として、災害時に業務を中断させず、万一中断した場合でも可能な限り短期間で業務復旧できる事業体であるよう、今後も様々な取組み・対策を行ってまいります。

(通信員 鶴田和彦)

JF

播磨地区漁協職員協議会

JF 家島の海上釣堀センターで 学習会開催



播磨地区漁協職員協議会（藤田次男会長：JF西二見）は会員組合内の様々な事業について学び、知識を深めようと、毎年、学習会を開催しています。今年も、JF 家島（中村利公組合長）の協力のもと、同 JF の「釣堀」事業について研修を行いました。

今回の研修内容は、昨年実施されましたが悪天候だったため、今年もう一度行うこととなったもので、会員 JF 職員のほか、系統団体職員も参加した総勢 26 名が姫路市妻鹿漁港から家島町の釣り堀に向かい出港しました。現地ではまず、JF 家島の担当者より事業内容について説明がありました。20m 四方×2 台をはじめとする足場の良いイケスを多数備えた当センターは、貸し切り対応可能で 250 名が楽しめる施設です。港に車を止めてから同センターまでの直行便を有し、貸し竿、エサのほか、職員らが釣った魚を捌いてくれたりと、家族連れが手軽に楽しめるようになっています。また、多く釣りすぎた人のために天然魚と交換するなどのサービスで、休日は大型魚を求める釣り人で賑わっているとのことでした。

このあと、参加者らは釣堀体験として、実際に魚釣りを行いました。エサ付けなど、担当職員らから指導を受けたのち、仕掛けを海中に入れると、すぐにウキにアタリが出て、皆、次々とマダイを釣り上げていました。また活きエサとしてアジをつけた人には大型のブリ、カンパチが掛かり、その強烈な引きに慌てながらも楽しんでいました。帰りは釣れなかった人にもマダイ 1 尾が渡され、楽しく学習会を終えることが出来ました。



妻鹿漁港から約30分の船旅へ



大きなカンパチが掛かりました！

JA

JA グループ兵庫

TPP 交渉安易な妥協を許すな JA グループ兵庫役職員 与党議員に要請

JA グループ兵庫の役職員18人は10月2日、日比谷野外音楽堂（東京都千代田区）で開催された『TPP 交渉から「食と暮らし・いのち」を守り国会決議の実現を求める全国代表者集会』の終了後、都内ホテルで、県内選出自民党国会議員に対して環太平洋連携協定（TPP）交渉に関する要請を行いました。

TPP 交渉が年内妥結に向け加速している中、JA 兵庫中央会の石田会長は「国民に十分な情報を開示するとともに、与党自民党の決議、衆参農林水産委員会における国会決議を遵守すること。農林水産分野の重要5品目などの聖域が確保できないと判断した場合には、即刻交渉から脱退すること」を強く求め、JA 兵庫信連の北畑会長から JA グループ兵庫を代表して要請書を出席議員に手渡しました。

要請後、石田会長は「自民党の国会議員には地元のことをよく分かってもらっているが、現場の農業者の声をあらためて伝えた。TPP 交渉は正念場を迎えており、決して安易な妥協は許してはならない」と話しました。



要請書を手渡す JA の組合長



最近の消費生活相談事例

インターネット通販で 購入した 財布の返品



事例

インターネット通販で財布を購入した。届いた商品がイメージと違っていたので、返品したいと販売会社に申し出たが、返品には応じられないと言われた。サイトには返品できない旨が記載されていたが、クーリング・オフはできないのか。

【アドバイス】

通信販売には、訪問販売・電話勧誘販売等のようなクーリング・オフの規定はありません。広告に記載されている返品特約（「○日以内は返品できます。」「返品はご容赦ください。」等）に従うことになります。突然に訪問・電話してきた事業者にすすめられ、十分な考慮ができず、購入の意思が明確でないまま契約をしてしまう可能性のある訪問販売・電話勧誘販売等に比べ、通信販売は自分のペースでじっくり商品選択を行えるからです。

ただし、広告に「返品特約」の記載がない場合は、商品を受け取った日から8日を経過するまでの間は売買契約の解除ができます。この場合、送料は消費者負担となります。

送られた商品が明らかに広告内容と異なる場合や不良品の場合は、別途、商品交換等を申し出ることになります。不明な点は、お近くの消費生活相談窓口にご相談してください。

（兵庫県生活科学総合センター）

MOVE

2013年度ひょうご消費者セミナー ～落語で学ぶ、だまされないコツ～

消費者セミナーとして6回目を迎える今回は落語家の林家染二さんをお迎えします。最近の悪質商法のさまざまな手口を紹介。笑いながら、だまされないコツを学びます。また、適格消費者団体からは、これまでに取り組んだ事例や新しい制度（「集団的消費者被害回復制度」）について報告します。

◆と き：2014年3月3日(月) 午前10時～12時

◆と ころ：兵庫県民会館 11F パルテホール

神戸市中央区下山手通4-16-3 (JR・阪神 元町駅より徒歩10分、地下鉄 県庁前 すぐ)

◆内 容：<講座・落語> 三代目 林家 染二 さん

大阪市出身。三代目染二を襲名後、上方落語会で初めて、文化庁芸術祭演芸部門優秀賞を2度受賞。滑稽噺、芝居噺、人情噺と幅広いレパートリーを誇り、次代を担う正統派として注目されています。

<講 座> [知ってビックリ！知って安心！愉快な悪質商法撃退講座]

<落 語> [かわり目 悪質商法版]

<活 動 報 告> ☆NPO法人 消費者支援機構関西 ☆NPO法人 ひょうご消費者ネット

◆参加費：無料 (定員150人。※兵庫県生協連は20人募集します。お早めにお申し込みください)

◆託児あり (1歳半～未就学児)：無料

◆締 切：2月20日(木)※定員になり次第締め切ります

◆申し込み方法：兵庫県生協連会までFAX・お電話でお申し込みください (FAX：078-392-2059 電話：078-391-8634)

◆主 催：コープこうべ、消費者支援機構関西、ひょうご消費者ネット、兵庫県生協連会

◆後 援：兵庫県・神戸市 (予定)

第9回「初級経理学校」のご案内

経理担当者の初歩からの人材育成をめざして、生協簿記の基礎知識から決算関係書類作成までをていねいに指導します。

日 程：1月16日(木)、17日(金)、21日(火)、22日(水)、23日(木) 会 場：兵庫県民会館ほか

受講料：お一人 2万円 講 師：三宅 充氏 (MMコンサルティング代表)

カリキュラム (1) 生協簿記の基礎知識 *講義・演習・練習の繰返し (2) 取引と仕訳 (3) 主な勘定科目の説明
(4) 決算手続き・試算表の作成・精算表の作成 (5) 貸借対照表と損益計算書・剰余金処分の作成

第12回「税務・経理講習会」のご案内

税務経理の諸問題等についての合同の講習会とクラス別の講習会で、生協の税務と経理の実務について学びます。

今回は、改正消費税と特別措置法の概要の解説も行います。

日 時：1日目：2月18日(火)9時30分～18時、2日目：2月19日(水)9時30分～18時

会 場：兵庫県民会館 受講料：会員生協：無料/関連子会社：お一人 5,000円 *ただし、昼食代・テキスト代は実費を徴収します。

講 師：江藤 俊哉氏 (税理士)、三宅 充氏 (MMコンサルティング代表)

宮田 正樹氏 (西宮市職員生活協同組合 統括部長)、山下 信孝氏 (生活協同組合コープこうべ 経理部統括)

クラス別講習内容：(1) 初級クラス (定員20名)

・内容：①税務・経理・財務管理の基本 ②簡単な設例に基づく税務申告書の書き方の手ほどき。

(2) 中上級・関連子会社(株式会社)クラス (定員20名)

・内容：①改正消費税の申告書の作成 ②設例に基づく法人税申告書の作成 (演習含む)

③上級者用設例による解説

参加申し込み・お問い合わせ：兵庫県生協連 TEL. 078-391-8634

編集後記

寒い寒い・・・と家に閉じこもりがちな季節。新年を迎えて気持ちも新たに！と、片づけコンサルタントの「片づけセミナー」に参加。片づけても片づけても、また散らかって「リバウンド」してしまわないためのコツを学びました。モノを一つひとつ見極めて、捨てるものを決めるのではなく、ココロキメク「残すもの」を選ぶ。片づけは、一気に！短期間に！完璧に！するのがポイントだそうです。さて、まずは事務所のデスク周りからトキメクものを探していきましょうか・・・

☆2014年も、みなさまにとって良い年でありますように。今年も兵協連と『兵協連だより』を、どうぞよろしくお願ひいたします。

(中尾)



県連日誌

1月11日(土) 新春トップセミナー(県民会館 福賀詞交換会 (県民会館 鶴)

1月16日(木)～17日(金)、21日(火)～23日(木) 第9回初級経理学校 (県民会館 ほか)

1月29日(水) 兵協連 第5回生協活動委員会 (県民会館 1101)